

塩尻市立図書館 サービス計画

塩尻市立図書館

平成26年3月

目次

1. 塩尻市立図書館サービス計画の策定にあたって	1
2. 塩尻市立図書館のミッション	2
3. 塩尻市立図書館のサービスの現状と課題、目標	5
I. 役立つ情報を提供する図書館	5
(ア) 資料の収集	
(イ) 資料の整理・保存	
(ウ) 資料の提供	
(エ) レファレンスサービス	
(オ) 分館	
II. 意欲と活動を応援する図書館	10
(ア) 乳幼児サービス・児童サービス	
(イ) 青少年サービス	
(ウ) 高齢者サービス	
(エ) 図書館利用に障害のある方へのサービス	
(オ) ビジネス支援サービス	
(カ) 子育て支援サービス	
(キ) 多文化サービス	
(ク) 医療・健康情報サービス	
(ケ) 図書館サポーターとの協働	
III. 進化する図書館	19
(ア) 郷土資料の充実と活用	
(イ) 学校連携	
(ウ) 企画事業	
(エ) 情報発信	
(オ) デジタル資料の充実と活用	
4. サービス指標一覧	24
資料編	26
塩尻市の概要	
アンケート結果	
統計データ	
塩尻市立図書館サービス計画の策定の経過	38

1. 塩尻市立図書館サービス計画の策定にあたって

塩尻市立図書館は平成18年3月、第4次塩尻市総合計画の策定に併せて、「塩尻市立図書館基本計画」を策定しました。

当時行われていた新図書館建設への議論と思いは、当該基本計画に凝縮され、その後、設計等の中でさらに具体的な議論が進められました。そして、平成22年7月、えんぱーくと名付けられた複合施設内に、塩尻市市民交流センターの中心施設として新図書館は開館しました。

新図書館の建設にあたっては、職員はもとより、多くの市民の皆様が議論に参加し、基本計画とともに、「これからの図書館像（文部科学省 2006）」により示された課題解決型の、地域の拠点となりうる図書館とすることが強く意識されました。どうすることがその理念を具体化し、多くの皆様に役立ち、支持される図書館へとつながっていくのか、その模索と試みが開館以降の図書館運営であったとも言えます。

また、新図書館では、従来の図書館では得られないさまざまな機能を、複合施設として他の施設と同居したことを積極的にとらえることにより、得ることができました。それは、他の多くの機能と連携することにより、新しい図書館の可能性を得ることができるという新図書館の姿をも生み出しました。えんぱーく内の諸機能と連携することはもちろん、市内外のさまざまな機関や団体等との協力関係の構築に力を入れることが、新しい図書館の可能性や役割を強化していく課程において重要な要件の一つとなっています。

平成18年度の塩尻市立図書館基本計画は、新しい図書館への期待と希望を計画に込める作業が中心に行われました。今回の図書館サービス計画は、その後に出来上がった器の特性を生かしながら、図書館に求められている諸機能を具体化し、さらに役立つ図書館へと進化し続けるための指針として策定作業を行いました。

本計画は、平成26年度から平成35年度までの10ヵ年計画とします。さらに、第5次塩尻市総合計画の期間に合わせ、前期を4ヵ年、中期を3ヵ年、後期を3ヵ年の3期に分け、それぞれの期間で目標となる指標を設定し、評価、見直しを行うこととします。

2. 塩尻市立図書館のミッション

塩尻市立図書館本館が入居する塩尻市市民交流センターは、図書館のほか、市民活動を支援する「交流支援課」と「子育て支援センター」の3セクションからなっています。施設は、図書館エリア、子育て支援センターエリア、市民交流エリアからなり、このほか建物内には、市商工課、塩尻市振興公社、塩尻商工会議所、塩尻市ふるさとハローワーク、民間企業等があり、官民が同居した複合施設となっています。「えんぱーく」は、この建物全体の愛称です。

市民交流センターは、「知恵の交流を通じた人づくりの場」を基本コンセプトに据えています。活動の重点分野として、「図書館」「子育て支援・青少年交流」「シニア活動支援」「ビジネス支援」「市民活動」を掲げ、その実現のために、

- ① 役立つ情報を提供する
- ② 意欲と活動を応援する
- ③ センター自身が進化する

という3つを目指すこととしています。

この実現と、市民のためのより高いサービスの提供を実現するため、運営にあたっては、「協働による運営」や「機能融合を目指した事業運営」等を掲げ、市民交流センター全体が一つのサービス体となる仕組みと取り組みが意識されています。図書館もその一員として、従来の図書館機能の充実とともに、他の機能との連携による新しい図書館サービスの実現を目指しています。

これらのことから、「塩尻市立図書館サービス計画」による図書館の目指す方向は、市民交流センターの方針に沿って次のとおりとします。

【ミッション】

『知恵の交流を通じた人づくりの場』

【目指すこと】

1. 役立つ情報を提供する図書館
2. 意欲と活動を応援する図書館
3. 進化する図書館

塩尻市立図書館が目指す3つの方針は、多様な図書館業務をそのいずれかに分類するものではなく、それぞれの業務が、役立つ情報を提供し、利用者を応援し、そしてより高いサービスの実現へと進化していく、という命題をもつ形になっています。

しかしながら、諸業務を体系的に捉えていくために、本サービス計画では、図書館サービスの基盤を形づくる「情報」に主眼を置き、そこから派生する基幹的サービスを「1」に組み込み、利用者のニーズ等様々な属性に基づいて行われる諸サービスを「2」に、「3」

には、従来の図書館の枠を超えた幅広い図書館活用の実現を目指したサービスに分類して計画を構築します。

1. 役立つ情報を提供する図書館

情報の収集、整理、保存、活用という図書館の基幹機能の充実なくして総合的な図書館力の発揮はありえないという認識のもと、資料収集や組織化の方針、方法を定めます。そのもとに、資料をより有益に活用できる配架やフロアワークの方向を分館も含めて全体的に定めます。

これらの機能に支えられて、レファレンスサービス※¹⁾等を充実させ、必要な情報を必要な人に早く的確に届ける体制を整えます。

2. 意欲と活動を応援する図書館

図書館は、市民の多種多様に展開する生活や仕事、学習等の活動と係わるすることができます。それら個別ニーズに沿った機能を充実させ、それぞれの活動を支援する機能を備える取り組みを進めます。

分野としては、乳幼児サービス・児童サービス、青少年サービス、高齢者サービス、図書館利用に障害のある方へのサービス、ビジネス支援サービス、子育て支援サービス、多文化サービス、医療・健康情報サービスを、先行して充実させる取り組みとします。

また、図書館を活動の場とする図書館サポーターの受け入れ、および読書活動ボランティア等との連携、支援を積極的に行い、市民とともにつくる図書館づくりを進めます。

これらにより、市民がさまざまな場で活動し、課題を解決し、さらにその活動を広げる機会を提供します。

3. 進化する図書館

「図書館は成長する有機体」※²⁾との認識のもと、常に新しい基軸を生み出せるよう考え、試み続けます。

その根幹は、「地域」です。地域は、市民生活のありとあらゆる活動を包含しています。その地域に役立つ図書館、地域を支援できる図書館となることを目指します。

そのためにまず、地域、郷土の資料の収集、保存を重要な取り組みの一つと位置付け、地域の記憶装置としての機能を高めます。

また、図書館が情報発信基地となって、市民への情報提供はもちろん、市外へ向けて塩尻市をさまざまな角度から発信する役割を担う取り組みを進めます。そのために、他の図書館や学校図書館、他の諸機関、諸団体との連携、ネットワーク化を進めます。その中でも特に、地域の書店や出版関係者との連携により、地域の読書環境を整備し、出版文化に寄与できる活動に取り組みます。

※¹⁾ 何らかの資料や情報を求めている利用者に対して、図書館員がその調査のお手伝いをする事。

※²⁾ S.R.ランガナタン『図書館学の五法則』（日本図書館協会 1981）より。

図書館が 目指すこと		図書館の 取り組み		内 容
Ⅰ	役立つ情報を 提供する図書館	1	必要な情報に最短でつながります	(ア) 資料の収集 (イ) 資料の整理・保存
		2	役立つ情報が見つかります	(ウ) 資料の提供
		3	新しい情報に出会えます	(エ) レファレンスサービス (オ) 分館
Ⅱ	意欲と活動を 応援する図書館	4	活動を始める機会を提供します	(ア) 乳幼児サービス・児童サービス (イ) 青少年サービス (ウ) 高齢者サービス (エ) 図書館利用に障害のある方へのサービス
		5	活動を広げる機会を提供します	(オ) ビジネス支援サービス (カ) 子育て支援サービス (キ) 多文化サービス (ク) 医療・健康情報サービス (ケ) 図書館サポーターとの協働
Ⅲ	進化する図書館	6	知恵を蓄積・活用・創造します	(ア) 郷土資料の充実と活用 (イ) 学校連携
		7	地域の価値を発信します	(ウ) 企画事業 (エ) 情報発信 (オ) デジタル資料の充実と活用

3. 塩尻市立図書館のサービスの現状と課題、目標

I. 役立つ情報を提供する図書館

(ア) 資料の収集

〈現状と課題〉
資料選定基準・資料収集方針に基づき、課題解決型図書館^{※3)}の基本を形成する資料収集を行っている。 一般書の収集方針として、1つのタイトルを複数冊所蔵することを控え、多くの要求に対応できるよう幅広い分野の資料を揃えることや、近隣の図書館、市内書店等との住み分けを意識している。また、専門図書等出版点数の少ない資料を買い支えることも図書館の使命である。 収集にあたっては漆器・宿場などの観光や、昆虫・鉱物などの市内博物館に関連する資料、レタスやブドウを中心とした農業、工業関連の資料など、郷土資料にとどまらない地域の特色を生かした資料の収集を行っている。筑摩書房の出版物に関しては、創立者の古田晁氏が塩尻市出身であることから、ご家族のご厚意により出版物を定期的にご寄贈いただいております。ほかにない貴重なコレクションとなっている。 全体の出版点数が少ない児童書については、長年読み継がれている絵本、独自に作成しているブックリスト掲載本や学校支援用の図書など、必要なものについては複数冊購入し、楽しみのための読書支援と調べ学習等の求めに対応できるようにしている。 雑誌については、レファレンス等への活用を意識し、本館だけで約400タイトルをそろえている。CD、DVDについては、県内出身の演奏者による音楽や県内出身の監督による映像作品等を中心に、販売店・レンタル店と競合しにくい資料を優先して収集するよう意識している。このほかに、新聞や冊子、チラシ等媒体に関わらず、必要な資料は広く収集している。 資料の提供とあわせ、収集した資料の活用方法の検討が課題である。
〈サービス方針〉
市民生活に役立つ課題解決型図書館の基盤を構築し、さまざまな需要に応えることができる幅広い資料収集を進める。
〈今後の計画〉
・ 多様な情報媒体による情報・資料の把握に努め、ニーズに合った資料収集を進める。 ・ 資料選定基準・資料収集方針を必要に応じて見直す。 ・ 定期的に、キーワード別の資料収集状況を確認、改善する。 ・ 視聴覚資料の資料収集方針、選定基準の整理を行う。 ・ 行政資料の収集を積極的に実行する。
〈サービス指標〉
蔵書数：45万点（雑誌、視聴覚資料は除く）

※3 趣味や娯楽の場にとどまらず、地域の課題を解決するための情報拠点として役立つことを目指す図書館。

(イ) 資料の整理・保存

〈現状と課題〉
資料の整理・保存は資料を提供するための土台となるものである。 まず整理については、本館・各分館ともに、利用者にとって魅力的な書棚づくりのために、バランスが良く、かつ特色ある開架※⁴ 図書の構成を意識して配架※⁵ および除架※⁶ を計画的に行っている。除籍※⁷ 基準はあるが、除架基準を作成できていない。 各種団体等から発行される広報紙、パンフレット類等は、図書館業務システムにデータを登録せず、分野ごとに担当職員が整理している。そのため、利用者からの求めに対応するためには、多岐に渡る資料の存在を把握し、新たな資料の発掘・収集に力を入れる必要がある。 行政資料に関しては塩尻市に関する資料を優先して処理しており、他市町村から寄贈される資料の整理が遅れる傾向がある。速やかな資料提供に備えて、迅速な処理を進める必要がある。 寄贈された資料のうち、出版年が古い雑誌などはリストに情報を記載するのみで管理しており、利用者には所蔵されている事がわからない状態のため活用できていない。 保存については、資料につまっている「知」を後の世代に残し伝えるという図書館の使命に基づいて行う必要がある。保管は、書庫がある本館で集中して管理しているが、分野によってはすでに飽和状態である。
〈サービス方針〉
市民生活を支援できるよう幅広い情報の的確な整理、保存を行い、地域に役立つ図書館としての資源の蓄積に努める。
〈今後の計画〉
・ データ登録されていない資料の整理、保存をする。 ・ 除架基準を作成する。 ・ 閉架書庫の運用について検討し対策を図る。 ・ 除籍資料およびリサイクルのため図書館に持ち込まれた資料の有効活用を進める。
〈サービス指標〉
データ登録せずに保存している資料の一覧を作成し、ホームページで公開する。

※⁴ 利用者が本を自由に手に取って閲覧できるようにしてある書棚。(⇔開架)

※⁵ 書棚に本を並べること。

※⁶ 開架されている本を閉架にすること。

※⁷ 図書館の蔵書として登録されている本の記録を抹消すること。

(ウ) 資料の提供

〈現状と課題〉
本館・分館ともに、一般的な図書分類法（日本十進分類法）を採用しているが、これにとられすぎることなく、可能な限り1つのテーマについて一ヶ所で必要な情報が入手できるように資料を並べている。内容に関連のある本は分野が違って同じ書棚に並べたり、図書、視聴覚等の形態の違いにかかわらず近くに置いたりなど、書店の陳列方法等を参考にしながら工夫をしている。 利用者にとって魅力ある資料を提供できるよう、本館では分野ごとに担当者を設け、書棚の整理をし、資料の収集等に活かしている。 分館では、定期的に本館と資料の入れ替えをしたり、独自にテーマを設けて本を集めたりしながら、利用する側が飽きない書棚づくりを行っている。分野や、館によって書棚の魅力に差が出ないようにしていくことが必要である。 また、必要な資料を必要な人に届けるのは職員の力も欠かせない。カウンターやフロアに出る際には館内の様子を気に配るとともに、意識的に職員から声をかけるようにしている。 所蔵がない資料を求められた場合は、リクエストサービスや図書館間相互貸借サービス※⁸⁾を活用して可能な限り利用者の求めに対応している。 個人貸出のほかに、所在地が市内の団体には多数の本が長期で借りられる団体貸出サービスを提供しているが、さらなる活用を図っていく必要がある。
〈サービス方針〉
資料と人をつなぐことが図書館の使命との考えに基づき、資料と人の仲立ちができる職員の育成を進めるとともに、求めのある資料を提供することはもちろん、潜在的ニーズを掘り起こすことのできる仕掛けづくりを進める。
〈今後の計画〉
・ 職員の資質ならびにホスピタリティの向上を図る。 ・ 各分野で多彩なテーマボックス※⁹⁾を行うことにより、利用者の多様な関心に応えとともに、潜在的なニーズを掘り起こす。 ・ 新鮮な資料が継続的に提供出来るよう、情報収集に努める。 ・ 現在取り扱っていない媒体の資料の提供についても情報を収集し、時機をみながら随時検討する。 ・ 他団体等の催事に合わせた本の企画展示等、資料と人をつなぐ、出会いを生む機会の創出に努める。
〈サービス指標〉
全館あわせた蔵書回転率※ ¹⁰⁾ ：一般1.2以上、児童2以上

※⁸⁾ 利用者の求める資料を所蔵していない場合、他館から借り受けて提供すること。

※⁹⁾ あるテーマに関するさまざまな資料を集めた期間限定の特設コーナー。

※¹⁰⁾ ある期間中の蔵書1冊あたりの貸出回数。(貸出冊数/蔵書冊数)

(エ) レファレンスサービス※^{1 1)}

〈現状と課題〉
本館・分館ともにレファレンスを最重要サービスとしている。レファレンス事例のうち、調査にある程度の時間を要したものは用紙と図書館業務システム内に記録を残している。その中から国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」にも登録しており、重複した記録作業の見直しとデータの活用方法の検討が課題である。 調査経過を記録しないクイックレファレンス※^{1 2)}については質問事項のみ記録し、質問傾向をパスファインダー※^{1 3)}等に反映できるよう整理しているが、パスファインダーの作成には至っていない。 本館においては7種類の商用データベースを無料で提供しており、レファレンスにも利用しているが、職員全員が使いこなせているとは言えない。また利用者自身の調査にも役立ててもらえるよう、周知や案内を行っているが、まだ十分ではなく、活用機会を増やすことが課題である。 分館だけでの調査が難しい質問については、本館職員がバックアップをするようにしているが、解決後の事例共有なども含め、連携をより緊密にすることが課題である。 図書館の資料だけでは調査が難しいレファレンスへの対応や、データベース操作も含めた職員のレファレンス技術の向上についても課題となっている。
〈サービス方針〉
利用者の課題解決を図る最重要サービスとして、体制の強化、技術の向上、データの蓄積を図る。
〈今後の計画〉
・ 図書館業務システムへのレファレンス事例登録機能やレファレンス協同データベースを活用し、過去の受付事例を蓄積・データベース化することにより、類似の質問へ迅速に回答できるようにする。 ・ レファレンス協同データベースへ多数の事例を登録することにより、役立つ情報を提供・発信する。 ・ 分野ごとにパスファインダーや本のリストを作成し、利用者が自力で情報にたどりつく手助けをする。 ・ 庁内の各部署や外部の専門機関との連携を深め、図書館の資料では調査しきれない質問にも対応できるようにする。 ・ データベース操作を含め、職員のレファレンス技術の向上を図る。
〈サービス指標〉
レファレンス受付件数（全館）：平成25年度比20%増

※^{1 1)} 何らかの資料や情報を求めている利用者に対して、図書館員がその調査のお手伝いをする事。

※^{1 2)} 単なる所蔵照会など、回答に時間を要しないレファレンス。

※^{1 3)} あることがらについての調べ方をまとめたガイド。

(オ) 分館

〈現状と課題〉
小学校区単位ごとに図書館が配置され、8分館が地域に根ざしたサービスを行っている。 それぞれ図書館として求められる規模としては決して十分なものではないが、移動図書館（自動車図書館）を持たない塩尻市のサービス体制としては、地区単位でサービスを展開できる重要な拠点となっている。 規模が小さな図書館であるため、予約サービスや物流、本館のバックアップによるレファレンス体制を充実させるとともに、きめ細かな対応が求められる。 また、地域の子どもの読書推進はもちろんのこと、そこに住む住民の求めているものがつかみやすい立場を活かして、地域資料の発見、保存、活用や、全般的な役に立つ図書館の機能を発揮できるように体制を整えて行く必要がある。 一部の施設の老朽化が進んでおり、対策が必要となっている。
〈サービス方針〉
全市域にきめ細かなサービス提供をするための地域拠点として、重要な役割を有していることから、あらゆる面で図書館としての機能の充実を図っていく。
〈今後の計画〉
・ 地域の特色をつかんだ蔵書構成を目指しつつも、構成が偏らないように配慮する。 ・ 図書の入替え、新しい企画展示等を随時行い、新しい資料提供が常にできる図書館づくりを進める。 ・ 地域にある保育園・幼稚園や小学校・中学校との連携を進める。 ・ 地域の人や団体との連携により、地域に根差した企画を発信する。 ・ 老朽化施設の今後について、関係課や地元との協議に積極的に係わる。
〈サービス指標〉
レファレンス受付件数：前年度比3%増

II. 意欲と活動を応援する図書館

(ア) 乳幼児サービス・児童サービス

〈現状と課題〉
図書館は、子どもたちが読書に親しみ、わくわくする発見・知識を得る場であるため、年齢にあわせた子ども、保護者のためのサービスを行い、多様な本や場、情報等に触れる機会を提供する必要がある。 また市は、子どもたちの規則正しい生活習慣づくりを目指して、「早ね、早おき、朝ごはん、どくしょ」をスローガンに掲げており、図書館もその一端を担っている。 本館、分館では年間を通じて計画的におはなし会を開催している。また、求めに応じて保育園や小学校などに出張して読み聞かせやおはなし会を行う「おはなしのプレゼント」を実施している。 毎月1日に子ども向けの広報紙「こども図書館だより」を発行し、情報提供に努めている。本館では、月毎にテーマブックスを最低2ヶ所で行い、調べ学習をテーマにした特設コーナーは、週に1度変更している。 今後は、年齢別に作成している6種類のブックリストの見直しや、パスファインダーやブックリストなどで学校図書館と協力したサービス提供の可能性を検討する必要がある。 子どもにかかわる事業としては、PTA親子文庫、赤ちゃんの4か月健診時に5冊の本の中から1冊選んでいただきプレゼントをするブックスタート事業がある。読書推進アドバイザーによる講座の開催、読み聞かせボランティアの育成等も随時行っている。 児童書の回転率が減少しており（H24 2.04冊、H25 1.98冊（予想））、調べ学習関連（0～8類）の資料の活用が十分ではないことが課題である。 保育園や学校等と協力しながら、子どもたちが必要な本を手に行けるよう読書環境を整える取り組みを積極的に行っていく必要がある。
〈サービス方針〉
子育て支援センターや保育園、幼稚園、学校、児童館等と協力して、子どもの読書環境を整える取り組みを進める。
〈今後の計画〉
・ ブックリストを改訂する。（冊数、発行頻度も検討） ・ 質問が多い事例をパスファインダーにする。 ・ 目的や子どもの年齢に応じた企画事業を実施する。 ・ さわる絵本や布絵本等の乳幼児のための資料収集を検討する。 ・ 平成25年度より始まった学校連携を検証する。 ・ 第2次子ども読書活動推進計画を策定する。
〈サービス指標〉
児童書の蔵書回転率：2以上で維持

(イ) 青少年サービス

〈現状と課題〉
中学生・高校生は、児童書から一般書への読書の過渡期であるが、様々な要因により読書から離れてしまうことが多い時期である。楽しみとしての読書だけでなく、本から情報を収集し、活用する力を身につける時期でもあるため、この世代への積極的なサービスを重要視している。 本館・洗馬分館・片丘分館・檜川分館では、中学生・高校生向けのコーナーを設置している。本館では、親しみを持って利用してもらいたいとの思いから、公募により決まった「若葉のコーナー」という名称を使用している。「若葉のコーナー」には、物語のほかに、学校図書館との住み分けを意識して、部活、勉強・受験、サブカルチャーなど独自の視点で集めた本と雑誌9誌を並べている。テーマボックスやイベントの企画を行い、中学生・高校生の図書館利用を促すとともに、季刊で情報紙「W a ・ K a ・ B a」を発行し、双方向を意識した情報発信に努めている。 また、職場体験・就業体験、学校の授業等での使用の積極的な受け入れを行っている。 現在の利用状況としては、高校生の利用は増加傾向にあるが、高校生に比して中学生の利用は微増となっている。 中学生・高校生と一緒に作りあげるサービスにはなっておらず、今後の課題である。図書館を利用したことがない中高生に対する来館のきっかけづくりも必要である。
〈サービス方針〉
読書離れが進むといわれる中高生世代の、読書への関心を高める取り組みを進めるとともに、課題解決のための図書館利用を広げる取り組みを進める。
〈今後の計画〉
・ 中高生を対象とした企画事業を行い、図書館利用のきっかけづくりとする。 ・ 中学校と連携し、調べ学習の支援やパスファインダーの作成を行う。 ・ 図書館利用教育の受入など、学校連携を進める。 ・ 関係部署との連携による企画事業を実施する。
〈サービス指標〉
中高生向け企画事業の開催回数（全館）：3回／年

(ウ) 高齢者サービス

〈現状と課題〉
えんぱーくは、基本コンセプトを実現するための5つの重点分野のひとつを「シニア活動支援」としている。 長寿社会の中で、学習や社会活動に意欲的なシニア層の取り組みがなされる中、えんぱーくは「塩尻ロマン大学大学院」※¹⁴⁾開催の場として活用されている。また、昼間、図書館や3階市民サロンを積極的に利用しているシニア層が多いことも、えんぱーくの特徴となっている。 この意欲的な活動を支援する体制を整えるとともに、活動する場の提供や、新たな関心を喚起するような取り組みを行うなど、その拡大は超高齢社会における図書館の大きな役割である。 えんぱーくらぶ※¹⁵⁾図書館グループとの連携としては、シニア向けに名作映画のDVD鑑賞会を年数回開催している。 年齢とともに身体が衰えた方へのサービスとしては、次のようなことを行っている。 本館・広丘分館・塩尻東分館・檜川分館では、視力が衰えた方のために大活字本コーナーを設置している。本館では朗読CDを積極的に収集しているほか、定期的にテーマブックスを行っている。しかし、これらの資料についての周知はいまだ十分ではない。館外サービスとしては、本館・分館ともに、老人福祉施設からの希望を受け、おはなし会を主とした訪問を行っている。 来館することができない方も含めて高齢者のニーズを把握し、関係団体と協力しながらサービスを実現することが長期的な課題である。
〈サービス方針〉
経験豊かな高齢者が持つ「知恵」や「文化」を継承し、その活動を支援するとともに、豊かな老後生活の実現に寄与できるサービスを多面的に検討し、利用しやすい図書館づくりを進める。
〈今後の計画〉
・ シニア世代の持つ知識や経験を生かすためのしくみづくりを検討する。 ・ 塩尻ロマン大学大学院の学習活動を支援するレファレンスサービスの体制を整える。 ・ 各地域や公民館等で行われているシニア世代の活動の状況把握に努め、関係団体と連携しながら支援を進める。 ・ 社会福祉協議会や福祉課、公民館などと連携を図る。 ・ 高齢者向けの企画を行う。 ・ 情報発信を強化する。 ・ 来館できない高齢者へのサービスを検討する。
〈サービス指標〉
シニア世代向け企画事業の開催回数：1回／年

※¹⁴⁾ ロマン大学は市内在住のシニア層を対象とした生涯学習の場。大学院ではより自主的に学習に取り組む。

※¹⁵⁾ 塩尻市市民交流センター（えんぱーく）の運営や企画に自らの意思で参加・協力するサポーター組織。

(エ) 図書館利用に障害のある方へのサービス

〈現状と課題〉
さまざまな理由や事情により、図書館の利用や資料の利用に何らかの支障がある方々や、来館が困難な方々へのサービス拡大を進めるとともに、障害となっていることを取り除くための努力が必要である。 本館では大活字本、朗読CDを積極的に収集しているほか、点数は少ないが点字図書も所蔵している。また、福祉課と協力し、字幕または手話の入った聴覚障害者向け映像ライブラリー作品を置いている。 平成25年度にサピエ^{※16)}へ加入し、デジタル録音図書「DAISY」^{※17)}の作成に着手した。また、会話が困難な方のために筆談ボードをカウンターに設置している。 サービス内容が限定的で、充実しているとはいえない状況にある。サービスに必要な知識や経験を持った職員の育成が必要である。 図書館利用に障害のある方の実態を把握し、基本方針や体制を整えてサービスを実現することが課題となっている。
〈サービス方針〉
来館することができない人も含め、必要な情報を必要な人に届けるため、サービスを多面的に検討し、実現する。
〈今後の計画〉
・ 朗読ボランティアや社会福祉協議会などの関連諸機関と連携して、図書館利用に障害のある方々の実態を把握し、具体的なサービスを実現する。 ・ DAISY再生機や拡大読書器等の活用と対面朗読室の利用促進を図る。 ・ 職員の知識や技術の向上を図る。 ・ 情報発信を強化する。 ・ 資料の宅配サービスなどについて検討を行う。
〈サービス指標〉
DAISYの所蔵数：500タイトル

※16 視覚障害者及び視覚による表現の認識に障害のある方々に対してさまざまな情報を提供する機関。

※17 視覚障害者や普通の印刷物を読むことが困難な方々のためのデジタル録音図書。

(オ) ビジネス支援サービス

〈現状と課題〉
えんぱーくは、基本コンセプトを実現するための5つの重点分野のひとつを「ビジネス支援」としている。課題解決型図書館を目指す中での重要なサービスと位置付けており「ビジネス支援図書館推進協議会」の施設会員となり、先進図書館とのつながりを強めながら情報の収集に努めている。 本館では「しごと情報コーナー」を設置し、働く個人が抱える課題の解決に役立つ資料を集めている。コーナーでは定期的にテーマブックスを行うほか、ハローワーク松本の求人情報紙や講座等のチラシ、中小企業庁のパンフレットを設置・配布している。 個別のビジネス支援として、漆器組合や市内の企業、個人経営者等の製品を紹介する企画展示、地元書店と共同の広報紙作成や講演会会場での書籍販売の場提供、地元商店街の催事支援などを行っている。 いまだ図書館内でのコーナーづくりが中心のサービスにとどまっているのが現状である。従来の図書館サービスを越えたサービスであることを深く認識し、関連諸機関と連携するなどして、仕事に役立つ情報をより広く提供する仕組みを作るとともに、具体的なビジネス支援サービスのメニューを開発して行く必要がある。 また一方、こうしたサービスについての周知を進める必要があり、丁寧な広報活動が不可欠である。
〈サービス方針〉
働く人や働こうとしている人、企業やNPO等、さまざまな経済活動を支援するサービスを継続的に進める。
〈今後の計画〉
・ 諸機関との連携を促進し、新たなサービスを開発する。 ・ ハローワーク、商工会議所との連携を強化する。 ・ 雑誌カバーへ企業広告を掲載する。 ・ 経済動向に応じた柔軟な企画を随時行う。 ・ 市内企業等を紹介する企画展示を開催する。 ・ 情報発信を強化し、サービスの周知に努める。 ・ 職員のビジネス支援サービスに関する知識や技術の向上を図る。
〈サービス指標〉
ビジネス支援サービスの広報回数：10件以上／年

(カ) 子育て支援サービス

〈現状と課題〉
本館は子育て支援センターと同居し、連携しているという大きな特徴を持っている。 本館児童コーナー内、子育て支援センターの前に、平成24年より乳児・幼児を持つ保護者向けの本を約300冊置き、コーナーを設けている。 また、子どものための本選びの参考として、年齢別のブックリストを作成し配布するとともに、本館・広丘分館・吉田分館・洗馬分館ではブックリストに掲載されている本を置くコーナーを設けている。 市の担当部署と連携しながら、妊娠8か月の妊婦のための「母親学級」にて、図書館の利用案内と本の紹介を行っている。そのほかに、本館では、子育て支援センターと連携したおはなし会を開催している。 子育て支援センターの利用者や各支所で行われる健診に参加された親子で、図書館を利用したことがない方への具体的な取り組みが行えていないのが課題である。 これから充実を図っていく段階のサービスであり、今後は、保護者に子どもにとっての読書の大切さを知っていただく啓発の場を充実させていくことが必要だと考えられる。また、少子化という社会的な問題についての情報の充実についても考えていく必要がある。
〈サービス方針〉
子育ての悩みを解決し、子育てを支援する取り組みを関係機関等と連携して進める。
〈今後の計画〉
・ 母親学級での配布パンフレットを見直し、図書館紹介を充実させる。 ・ 子育てに関する本の充実と随時見直しを進める。 ・ 子育て支援センターとの連携をさらに強化する。 ・ 市関連部署との連携を強化し、子育てに関する書籍以外の情報提供を行うとともに、企画情事を開催する。
〈サービス指標〉
全館に子育てを支援するコーナーを設ける。

(キ) 多文化サービス

〈現状と課題〉
外国籍の方も快適に図書館を利用できる環境づくりを目指すため、本館に「洋書コーナー」を設け、雑誌4誌を含む資料約2,000冊を置いている。また、行事予定やお知らせ、カレンダーなどの情報を英語で掲示している。分館では、吉田分館に洋書コーナーを設けている。 英語版の利用案内・予約リクエストカードを作成し活用しているが、それに加えて職員用の英語版対応マニュアルを作成し、随時更新をしている。また、英語のおはなし会を25年度より開始したが、内容は日本人の小学生向けとなっている。 資料の充実は少しずつ図っているが、直接的なサービスが未検討であること、外国人利用者が増加しないこと、リピーターが少ないということが課題である。 平成25年度から市民課の協力を得て、英語圏からの転入者へ英語版の図書館利用案内を配布しているが、より一層のPRに努める必要がある。また、市内の外国人の人口統計なども参考に、ニーズをとらえながら、必要な言語の資料の充実を図り、英語以外の言語を使用する方へのサービスを検討する必要がある。
〈サービス方針〉
変動の大きい在住外国人の状況把握に努めながら、ニーズに応じたサービスの創出と、資料の有効活用を進める。
〈今後の計画〉
・ 蔵書統計の貸出数、蔵書回転率を参考に選書・発注し、季節ごとに入れ替えするなど、書棚の鮮度を保つ。 ・ 多様な言語の資料を意識して収集する。 ・ 図書館ホームページへ英語版の利用案内を掲載する。 ・ 県内観光パンフレットの外国語版を収集する。 ・ 行政情報等、暮らしに必要な情報を収集・発信する。 ・ 直接的なサービスを検討する。
〈サービス指標〉
外国語で書かれた実用書の蔵書数／1,800冊

(ク) 医療・健康情報サービス

〈現状と課題〉
健康や病気についての情報が入手しやすい環境を作るため、本館に、緩和ケア（約200冊）、闘病記文庫（約700冊）のコーナーを設置している。 医学書に関しては、過去のレファレンス記録なども参照し、できるだけ網羅的に選書をしているが、特に難病や症例の少ない疾患などは資料が少なく有用な情報を提供することが難しい。またこれらの情報を調査・提供する際には、科学的根拠等、情報の信頼性を判断することが求められ、その知識や技術を習得するための研修実施の検討が必要である。 図書以外の資料としては、NPO法人の協力により「がんと暮らす情報」コーナーを設け、配布用のパンフレットを提供している。このほかにも国や県などが発行した医療関連パンフレットの収集等、多様な情報を提供できるようにしていくことが必要である。 また市の担当部署や医療関係機関との連携は、欠かすことのできない要素であり、今後の検討が課題となっている。
〈サービス方針〉
科学的根拠に留意しながら幅広い資料を収集するとともに、専門機関等と連携し、利用者の抱える問題に応じた情報を提供できるよう努める。
〈今後の計画〉
・ 医療について多様な情報を提供できるよう、国立がん研究所発行の「がんの冊子」や、県・市が発行する医療関連パンフレット等を収集・提供する。 ・ 他機関との連携を行い、医療関連の講演や研修、イベント等の情報を図書館で発信するとともに、会場において図書館の利用案内を行う。 ・ 新しい情報を提供するため、病気に関する専門書については発行後3年を目安とし除架する。
〈サービス指標〉
市の担当部署や市内医療機関等と連携を始め、講演会等の企画事業を行う：1回／年

(ケ) 図書館サポーターとの協働

〈現状と課題〉
えんぱーくを舞台に、ボランティア活動による自己実現を目指す市民の組織「えんぱーくらぶ」がある。本館では、えんぱーくらぶ内の図書館グループと協働でDVD鑑賞会を定期的に開催しているほか、日常的には、館内で書棚へ本を戻す返本作業と、本にブックコーティングを行う装備作業をしていただいている。返本作業と装備作業のために、「図書館サポーター養成講座」を隔年で開講している。 市民の読書活動との連携及び支援のために、「塩尻市読書活動グループ連絡会」を組織し、図書館が事務局となって、相互の情報交換や連絡調整にあたっている。 数多い読み聞かせボランティアグループや新たに活動しようとしている市民のために、研修会を実施するほか、県等が主催する講座情報の提供にも努めている。 活動の場が充実したものになるよう、サポーターとコミュニケーションをとり、よりよいパートナーシップを築く必要がある。
〈サービス方針〉
図書館でのボランティア活動が気持ちよくできるよう、環境整備を進めるとともに、図書館の施設や本を含む備品を使ったボランティア活動の支援を積極的に行う。
〈今後の計画〉
・ 隔年毎にサポーター養成講座を開き、サポーターを募集する。既登録者の学び直しの場合としても講座を活用する。 ・ 図書館サポート活動が自己実現の場となるよう、環境を整える。 ・ 新たな活動の場の提供を検討する。 ・ 図書館とサポーターとが相互に理解を深め、つながりを保つために、広報紙の送付や意見交換会の開催など、コミュニケーションを強化する。
〈サービス指標〉
登録者との意見交換会の開催：1回／年

III. 進化する図書館

(ア) 郷土資料の充実と活用

〈現状と課題〉
本館では長野県に関する資料を集めた郷土資料コーナーを設置し、特に、塩尻市に関する資料、長野県の出版社の本、姉妹都市資料、県内の学術・研究機関紀要、文芸同人誌などに力を入れて収集している。 郷土資料はできる限り複数冊所蔵し、内容が特定の地域に限定される資料については、東信・北信・南信・中信に区分けし、対応する市町村史と一緒に並べている。塩尻市に関する資料は、内容が塩尻市に関するものである、塩尻市出身の方について書かれている、塩尻市出身・または在住の方の著作であるものを中心として形態に関わらず網羅的に収集している。行政作成の資料が集まりにくく、今後の収集、活用が課題である。 「ワイン」、「短歌」、「松本山雅FC」について、地域の特色を発信するコーナーづくりを行っている。 分館でも、限られたスペースではあるが、それぞれの地域の特性を意識した資料の収集と活用に努めている。 図書館が地域の記憶装置となるために、どのように郷土資料を充実させていくのか、デジタルアーカイブも含め大きな課題である。 郷土資料は、レファレンスの際に改めて資料価値を見出されることもある。郷土資料をより活用するためには、所在を整理してデータ化し、詳細な目次情報を加えることが必要である。
〈サービス方針〉
郷土の記憶を収集、保存、活用することを、サービス計画全体の主要な柱の一つとし、継続的かつ積極的に取り組む。
〈今後の計画〉
・ 郷土資料を優先的に入手する。 ・ 市内の団体等の広報紙やパンフレットなど、図書以外の資料についての収集を拡大・継続する。 ・ 目次情報の入力により図書データを充実させ、レファレンスに迅速に対応できるよう資料価値を高める。 ・ 分館の郷土資料も含め、必要な資料が所蔵されているか定期的に確認し整理する。 ・ 塩尻市出身の人物関係資料の収集と紹介を行う。 ・ 郷土資料のデジタルアーカイブ化を進める。 ・ 市内博物館を中心に他種館間連携による資料収集を進める。(MLA連携)
〈サービス指標〉
郷土資料にかかわる人物等の紹介や、郷土資料を生かした企画事業の開催：3回／年

(イ) 学校連携

〈現状と課題〉
平成25年度から、市内小中学校の図書館司書の人事を市立図書館と一元化し、学校図書館と公共図書館の連携強化と、情報交換による相互の状況把握と補完体制の強化をスタートした。 市立図書館と学校図書館がそれぞれ蓄積してきたノウハウを活かし、両者の資質向上を図ることとしている。 こうした取り組みをさらに充実させることにより、児童・生徒の読書環境を整え、市が丸となって読書活動の推進を進める必要がある。 平成25年度から、学校図書館の資料不足を補うため、専用のブックセットを作り、これまでの団体貸出に加え、新たな学校への貸出サービスを行っている。 今後、充実させていく必要がある取り組みとして、同地区内の分館と学校との協力体制の確立や、教育課程や授業内容にあわせた資料の収集・提供などが挙げられる。
〈サービス方針〉
子どもの読書環境の充実と、教職員を中心とした学校現場への支援を強化するため、学校及び学校図書館との連携強化を進める。
〈今後の計画〉
・ 学校での読書への取り組みや図書館利用教育を積極的に支援する。 ・ 学校図書館の向上のため、研修の充実を図る。 ・ 書棚等の設備配置や資料の並べ方の工夫など、利用しやすい図書館づくりを支援する。 ・ 巡回ブックセットの充実を図る。
〈サービス指標〉
学校図書館司書の研修の機会：3回以上／年

(ウ) 企画事業

〈現状と課題〉
本館では幅広いテーマで企画事業を行っている。 「信州しおじり 本の寺子屋」では、図書館が中心となって生涯読書を推進し、出版文化の発展に寄与することをコンセプトに、本の可能性を考える機会を提供している。 市民が所蔵するコレクション品の展示や、市内の施設や庁内と連携した展示の際は、展示内容に関連するテーマブックスを行い、本と人をつなぐきっかけとしている。 分館ではおはなし会や工作教室、コンサート、料理教室など、各世代に向けた行事を開催し、地域住民の利用促進を図っている。 企画事業は市民にとって魅力的な内容であるだけでなく、「図書館PRの一手段」という認識のもと、図書館の機能を発信し、市民の図書館への愛着が深まるとともに、多くの方に図書館へ足を運んでいただき、本と出会う機会とする必要がある。一過性のイベントに終わらず、結果的に新規利用者や継続的な利用者の獲得につながるような企画をすることが課題である。
〈サービス方針〉
多様な企画により、図書館へ目を向け、図書館へ足を運び、図書館利用のきっかけとなる取り組みを進める。
〈今後の計画〉
・ 「信州しおじり 本の寺子屋」をメインに据え、本と人をつなぐ企画事業を発展させる。 ・ ㈱筑摩書房との連携強化を図る。 ・ 古田晁記念館を維持・管理・活用する。 ・ 信州大学附属図書館との連携協定に基づく事業展開を図る。 ・ 各分館も含めて、幅広い世代に向けたきめ細かく多様な企画事業を行う。 ・ 市民や諸団体、諸機関等と連携した企画事業を行う。 ・ 企画の効果を測定し、評価と改善、見直しを行う。
〈サービス指標〉
イベント参加人数（全館）：10,000人／年

(エ) 情報発信

〈現状と課題〉
図書館のさまざまな企画事業や利用案内等に関心を寄せる方々への情報発信は、当然行われなければならないものであるが、これに加えて、図書館を利用しない方々に図書館が有益な施設であることを伝えることが重要との考えに基づいて、絶え間ない情報発信を行っている。また、広範な情報発信は、図書館にとどまらず「塩尻市」を発信することでもあるとの認識をしている。 紙媒体による情報発信としては、4種類の図書館だより（大人向け・子ども向け・中高生向け・本の紹介）や、各イベントのチラシ・ポスターを発行するほか、市の広報紙、マスコミ、連携部署で発行されるチラシ等に情報を掲載している。また、塩尻市のホームページ、図書館ホームページ、フェイスブックなどでのデジタル情報発信も行っている。 市民にとって有益であるとともに、図書館への理解が深まるような情報を効果的に発信することが課題である。 他団体等との連携により、情報発信手段を共有しあうことで、双方にメリットのある情報発信等も研究する必要がある。
〈サービス方針〉
図書館が市民生活に欠くことのできない施設として認知されるために、多様な形による時期を得た情報発信をする。さらに、市外へ向けた塩尻市の情報発信の一つとして、図書館情報を発信する。 チラシやポスターのイメージに一貫性を持たせ、分かりやすい情報発信に努める。
〈今後の計画〉
・ より効果的な情報発信手段を検討し実施する。 ・ 図書館に関心のない方々の目に止まり、図書館を意識するきっかけとなる広報を行う。 ・ マスコミに積極的な情報提供と取材依頼を行う。
〈サービス指標〉
メディアに取り上げられる回数：50回／年

(オ) デジタル資料の充実と活用

〈現状と課題〉
本館1階ではインターネット用パソコンを一般・児童あわせて6台と、オンライン商用データベース用パソコン3台を配置している。また、2階では貸し出し用または個人の持ち込みパソコンが利用できる座席を整備し、貸し出し用パソコンでは無線LANを利用することができる。 オンライン商用データベースは7種類を無料で提供するほか、平成26年1月からは「国立国会図書館デジタルコレクション送信サービス」の提供も始め、ハイブリッド図書館※¹⁸⁾の利用を可能にしている。 デジタル資料を活用するためには、その存在の周知や利用環境の整備（機器の管理、マニュアル作成、利用教育等）を行うことと、利用状況を検証して適切なツールを選択することが必要である。 今後は資料のデジタルアーカイブ化、新たなデバイスやコンテンツ導入の可能性、外部データとのネットワーク化等についての検討が課題となっている。
〈サービス方針〉
今後の大きな環境変化が予想される分野であり、関連情報の収集に努めるとともに、効率的な活用の検討と導入を逐次進めていく。
〈今後の計画〉
・ 図書館で利用できるデジタル資料の存在を周知し、利用の促進を図る。 ・ 職員、市民のデジタル資料の利用に関する知識や技術の向上の機会を設ける。 ・ 新たなデジタル資料の利用や作成について検討を進める。 ・ インターネット上の有用な情報資源の活用方法について検討する。
〈サービス指標〉
デジタル資料アクセス数：350件／年

※¹⁸⁾ 電子媒体と印刷媒体の資料を組み合わせ利用できる図書館。

4. サービス指標一覧

指標は4年後の平成29年度末の達成を目標とし、同年に見直すものとします。

サービス内容	サービス指標
資料の収集	蔵書数：49万点
資料の整理・保存	データ登録せずに保存している資料の一覧を作成し、ホームページで公開する。
資料の提供	蔵書回転率（全館）：一般1.2以上、児童2以上
レファレンスサービス	レファレンス受付件数（全館）：平成25年度比20%増
分館	レファレンス受付件数：前年度比3%増
乳幼児サービス・児童サービス	児童書の蔵書回転率：2以上で維持
青少年サービス	中高生向け企画事業の開催回数（全館）：3回／年
高齢者サービス	シニア世代向け企画事業の開催回数：1回／年
図書館利用に障害のある方へのサービス	DAISYの所蔵数：500タイトル
ビジネス支援サービス	ビジネス支援サービスの広報回数：10件以上／年
子育て支援サービス	全館に子育てを支援するコーナーを設ける。
多文化サービス	外国語で書かれた実用書の蔵書数／1,800冊
医療・健康情報サービス	市の担当部署や市内医療機関等と連携を始め、講演会等の企画事業を行う：1回／年
図書館サポーターとの協働	登録者との意見交換会の開催：1回／年
郷土資料の充実と活用	郷土資料にかかわる人物等の紹介や、郷土資料を生かした企画事業の開催：3回／年
学校連携	学校図書館司書の研修の機会：3回以上／年
企画事業	イベント参加人数（全館）：10,000人／年
情報発信	メディアに取り上げられる回数：50回／年
デジタル資料の充実と活用	デジタル資料アクセス数：350件／年

資料編

塩尻市の概要

アンケート結果

統計データ

塩尻市は、1959年（昭和34年）に塩尻町・片丘村・広丘村・宗賀村及び筑摩地村の1町4村が合併し市制を施行。その後、1961年（昭和36年）には隣接の洗馬村が、また、2005年（平成17年）4月には木曽郡檜川村が編入合併となり、今日に至っている。

地形は東西17.7km、南北37.8km、面積290.18km²で、その約70%が森林となっている。平成25年4月1日現在、人口67,272人、世帯数25,668世帯である。

長野県のほぼ中央に位置する本市は、北アルプス、中央アルプス、鉢伏連峰・高ボッチの山並みを背景に田園風景が広がり、また、信濃川水系の奈良井川と田川、天竜川水系の小野川が流下し、日本海と太平洋を隔てる中央分水界となっている。

本市には、旧石器時代から近現代に至る多くの遺跡や、有形・無形文化財など貴重な遺産が数多く存在している。なかでも豊かな水源を背景に、縄文時代以降長期に渡って集落が形成された平出遺跡は、国史跡に指定され、学術的に貴重な資料を多く出土している。

近世の遺産では、中山道・伊那街道（三州街道）・北国西街道沿いに栄えた塩尻宿・郷原宿・洗馬宿・本山宿・贄川宿・奈良井宿があり、今も往時の面影が残っている。特に、奈良井宿は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、「奈良井千軒」といわれるほど繁栄した個性的な街並みが今も保存されている。

また、隣接する木曽平沢地区は、漆工町として2006年に同じく国の重要伝統的建造物群保存地区に指定され、町並み保存が進められている。

近代歌人の面影を偲ぶ広丘の歌碑公園には、近代短歌の潮流と言われる太田水穂、島木赤彦、若山牧水をはじめ、女流三歌人の若山喜志子、四賀光子、潮みどりらの歌碑が建立されている。また、隣接する短歌館にはそれらの歌人の遺品が数多く展示されており、毎年開催される「全国短歌フォーラム in 塩尻」には、全国から数多くの短歌投稿があり、短歌愛好者が集っている。

豊かな緑につつまれた塩尻の農業は、野菜と果樹に代表されている。明治23年に桔梗ヶ原でブドウ栽培が始められ、近年、品質の向上とともに「桔梗ヶ原」の名で親しまれるようになってきたワインは、塩尻市が押すブランド戦略の重要な一品となっている。

また、標高が高い塩尻は、特に夏から秋にかけ昼夜の気温格差が大きい内陸性の気候で、洗馬のレタスに代表される葉菜類の栽培にも最適な地である。

工業面では、主力産業である電子、精密機器関係の集積を生かしながら、高付加価値及び先端技術産業の集積や人材ネットワークを高める、創造型産業都市を目指している。

商業面では、近年の交通体系の変化から、国道沿線を中心に大規模小売店の進出が増加し、大門地区及び広丘地区の中心市街地周辺商店街の活性化が、大きな

課題となっている。

木曽平沢地区は一大漆器産地を形成し、漆器木工品を作る生産現場として優れた美と技が追求され続けている。同地区は、400年ともいわれる歴史をもつ、漆器関連産業で集落が形成された、全国でもめずらしい漆器産地である。

本市は古くから中山道、北国西街道、伊那街道（三州街道）などが交差し、現在でも国道19号、20号、153号、361号や、長野自動車道が通る交通の要衝の地である。鉄道も西と東の分岐点として重要な位置を占め、更にジェット化された信州まつもと空港が、北海道と九州を結んでいる。

今後も、公共輸送サービスの充実のため、特急列車のスピードアップをはじめ、空港の利用促進、高速バスの活用促進や地域振興バスの利用拡大など、一層の充実が図られつつある。

アンケート実施概要

アンケートは次の方を対象に実施しました。

- ・塩尻市図書館協議会委員
- ・塩尻市読書活動グループ連絡会会員
- ・塩尻市図書館計画策定懇話会委員
- ・えんぱーくらぶ会員（個人会員、団体会員代表者）

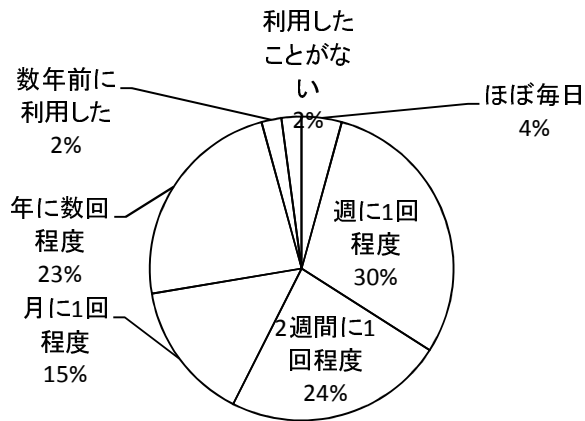
アンケート実施日：平成25年9月8日

アンケート実施人数：94名

回答者数：54名

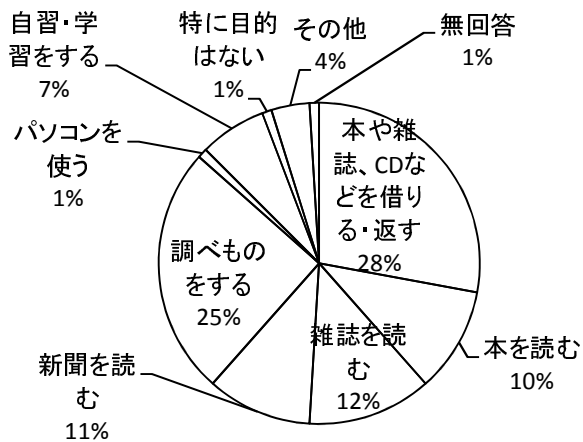
問1:塩尻市立図書館にはどれくらいの頻度で来館しますか。

1	ほぼ毎日	2
2	週に1回程度	14
3	2週間に1回程度	11
4	月に1回程度	7
5	年に数回程度	11
6	数年前に利用した	1
7	利用したことがない	1



問2: 問1で1～6を選んだ方にお聞きます。塩尻市立図書館をどのような目的で利用することが多いですか。(複数回答可)

1	本や雑誌、CDなどを借りる・返す	29
2	本を読む	11
3	雑誌を読む	13
4	新聞を読む	11
5	調べものをする	26
6	パソコンを使う	1
7	自習・学習をする	7
8	特に目的はない	1
9	その他	4
10	無回答	1

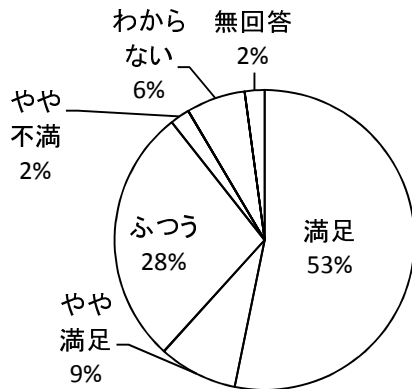


アンケート結果 問3

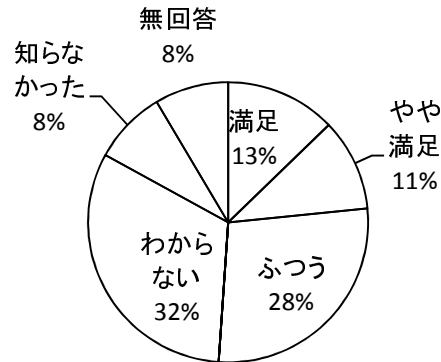
問3:塩尻市立図書館で提供する次のようなサービスについて、どのくらい満足していますか。
各項目につき、満足度をひとつ選んで番号に○をつけてください。

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	わからない	知らなかった	無回答
ア レファレンス	25	4	13	1	0	3	0	1
イ 商用データベース	6	5	13	0	0	15	4	4
ウ インターネットからの蔵書検索	12	6	9	3	1	9	3	4
エ 講演会や行事などの催し	11	14	14	0	0	8	0	0
オ 予約・リクエストの対応	15	9	11	3	1	4	2	2
カ 分館の使いやすさ	8	6	16	1	1	11	1	3
キ 窓口や電話での対応	19	9	10	1	0	5	1	2
ク 広報紙を活用した情報発信	13	2	25	1	0	4	0	2
ケ インターネットでの情報発信	6	3	12	2	0	16	4	4
コ マスコミを活用した情報発信	6	5	17	4	0	10	3	2
サ 図書館ボランティアへの支援	6	9	11	2	1	13	3	2
シ 他機関や団体との連携	5	4	13	13	4	16	3	2

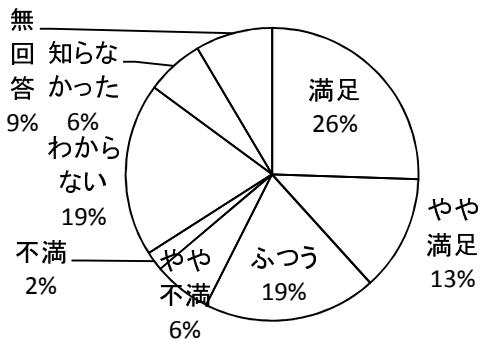
ア) レファレンス



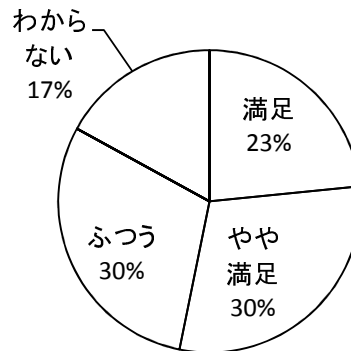
イ) 商用データベース



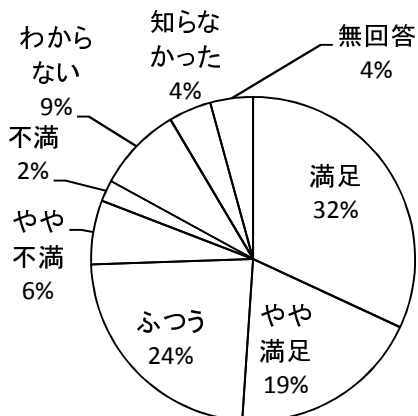
ウ) インターネットからの蔵書検索



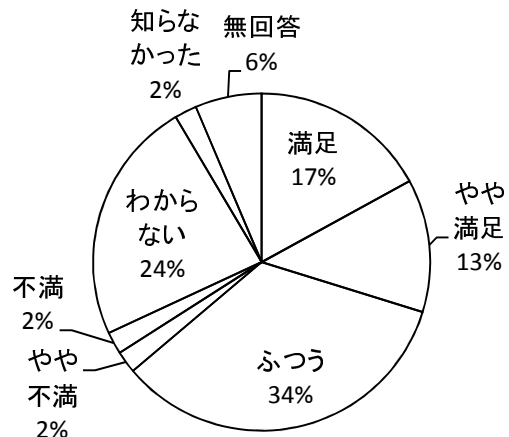
エ) 講演会や行事などの催し



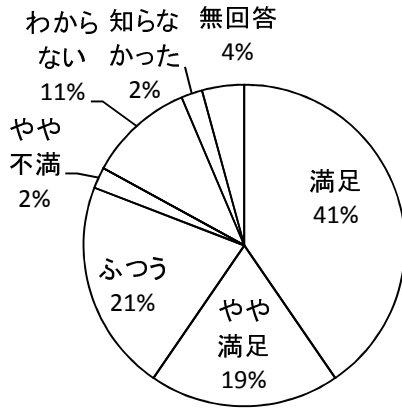
オ) 予約・リクエストの対応



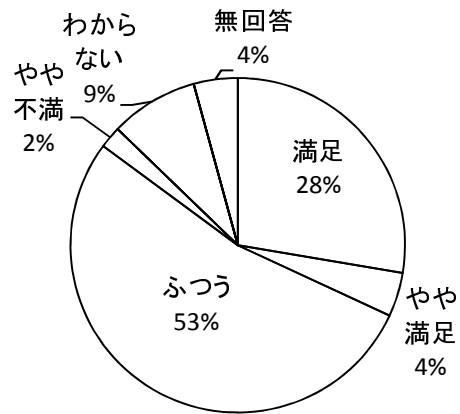
カ) 分館の使いやすさ



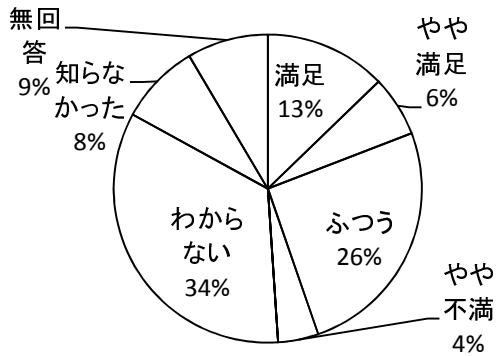
キ) 窓口や電話での対応



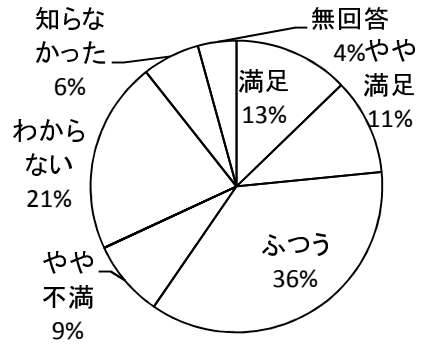
ク) 広報紙を活用した情報発信



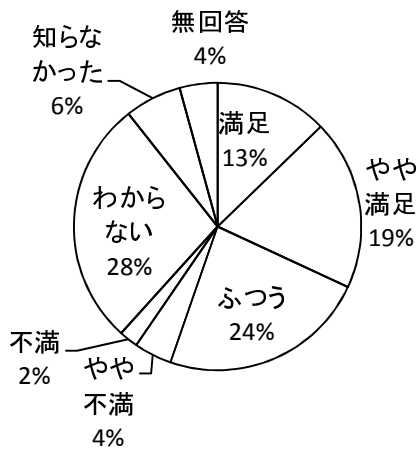
ケ) インターネットでの情報発信



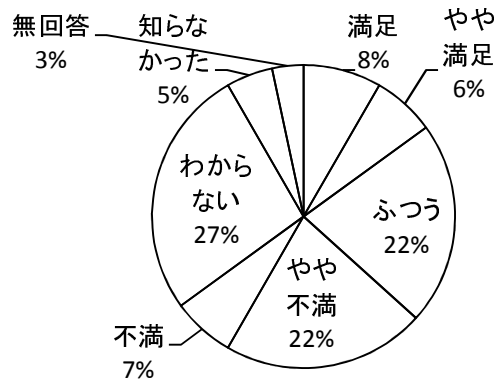
コ) マスコミを活用した情報発信



サ) 図書館ボランティアへの支援



シ) 他機関や団体との連携

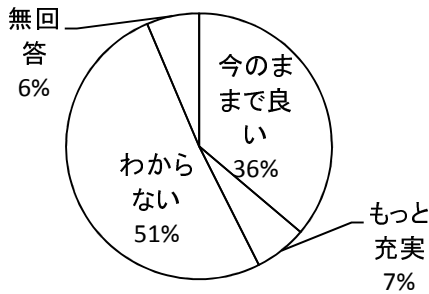


アンケート結果 問4

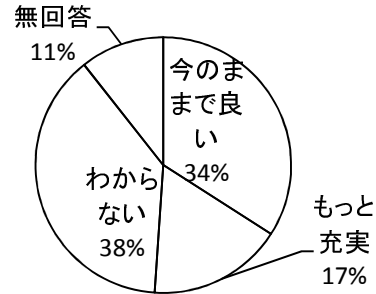
問4: 次のような方々を対象としたサービス(資料・案内・行事など)について、どのように感じですか。各項目につき、ひとつ選んで番号に○をつけてください。

	今のままで良い	もっと充実	わからない	無回答
ア 乳幼児	17	3	24	3
イ 児童	16	8	18	5
ウ 青少年	12	13	19	3
エ 高齢者	17	16	11	3
オ 障害者	7	12	24	4
カ 子育て世代	6	11	26	4
キ 働いている人	17	10	16	4

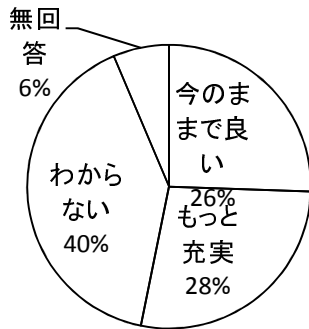
ア) 乳幼児



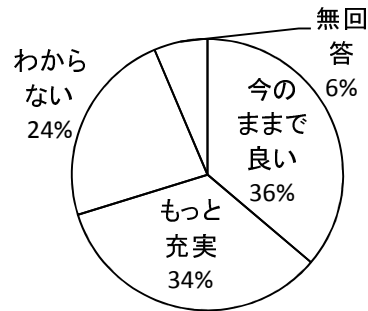
イ) 児童



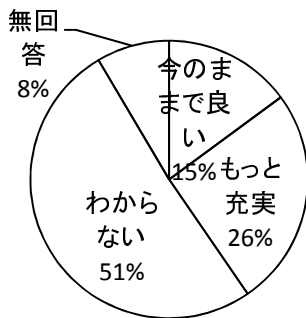
ウ) 青少年



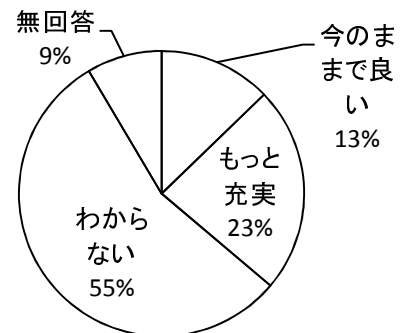
エ) 高齢者



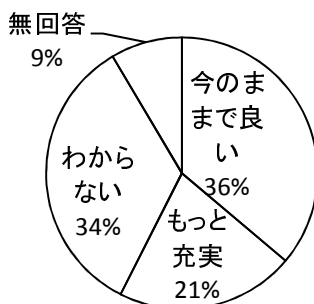
オ) 障害者



カ) 子育て世代



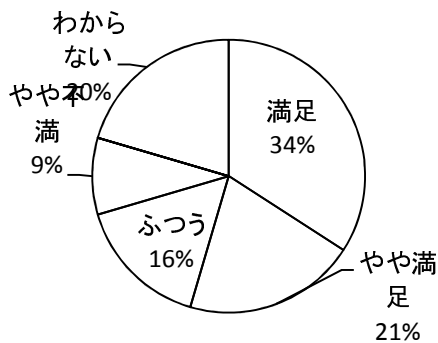
キ) 働いている人



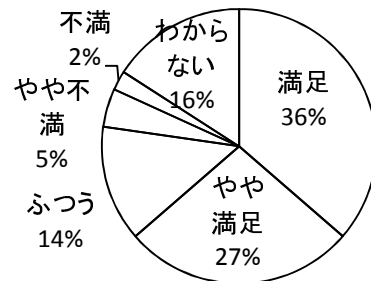
問5: 図書館資料の所蔵状況について、どのくらい満足していますか。各項目につき、ひとつ選んで番号に○をつけてください。

		満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	わからない
ア	蔵書全体のバランス	15	9	7	4	0	9
イ	図書の量	16	12	6	2	1	7
ウ	図書の質	15	10	7	5	0	7
エ	雑誌の量	20	10	6	2	1	6
オ	雑誌の質	15	10	8	4	0	8
カ	新聞の量	19	5	9	1	0	10
キ	新聞の質	17	6	9	2	0	10
ク	視聴覚資料の量	4	1	7	2	1	28
ケ	視聴覚資料の質	3	1	7	3	1	28
コ	チラシ・パンフレット類の量	6	5	14	3	0	15
サ	チラシ・パンフレット類の質	6	4	14	4	0	15

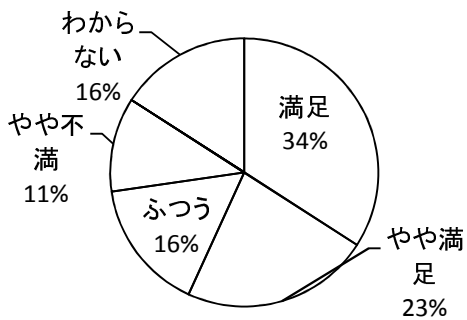
ア) 蔵書全体のバランス



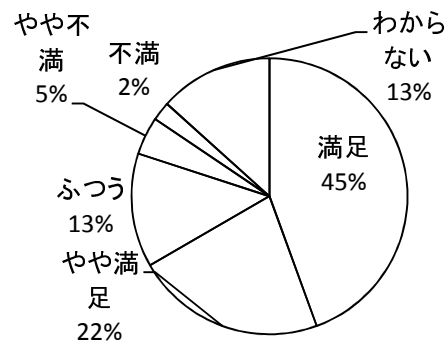
イ) 図書の量



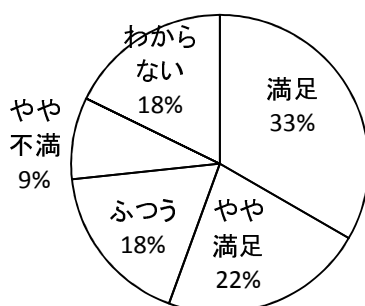
ウ) 図書の質



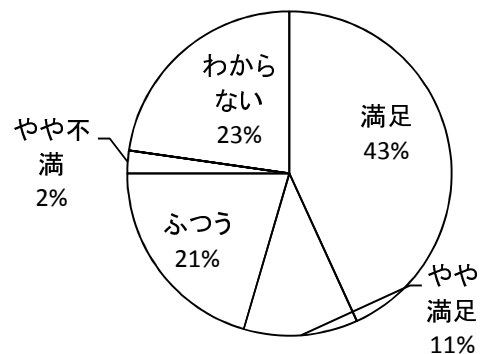
エ) 雑誌の量



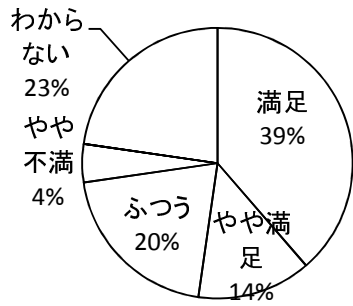
オ) 雑誌の質



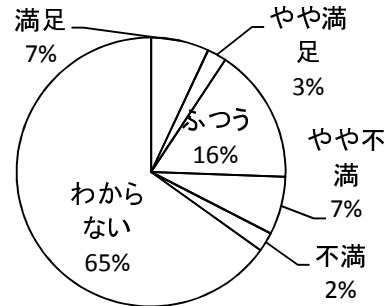
カ) 新聞の量



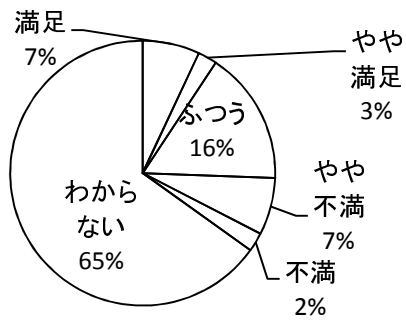
キ) 新聞の質



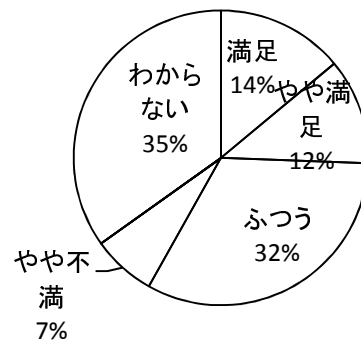
ク) 視聴覚資料の量



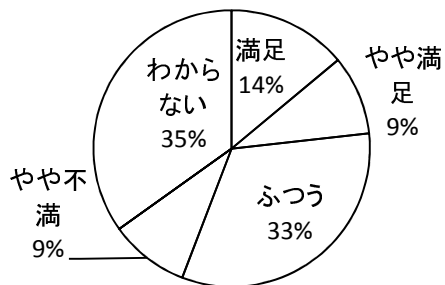
ケ) 視聴覚資料の質



コ) チラシ・パンフレット類の量



サ) チラシ・パンフレット類の質



統計データ

1. 蔵書数
2. レファレンス受付件数
3. 商用データベース利用数
4. 広報紙発行回数
5. 新聞掲載回数
6. 中高生利用者数
7. 資料回転率

表 1 蔵書数*

年度	総数
H22	362,472
H23	387,158
H24	406,198
H25	

*雑誌・視聴覚資料は除く

表 2 レファレンス受付件数*

年度	本館	広丘	北小野	洗馬	宗賀	塩尻東	片丘	吉田	檜川	全館
H22*	361	32	6	3	26	7	26	73	10	544
H23	557	53	35	32	149	56	67	142	44	1,135
H24	646	38	54	104	237	38	46	199	116	1,478
H25										

※H22 年度は H23 年 1 月からの統計

*所蔵照会は除く

表 3 商用データベース利用件数

年度	利用総数
H22*	54
H23	117
H24	104
H25	

※H22 年度は H22 年 7 月からの統計

表 4 広報紙発行回数

年度	図書館だより (一般向け)	こども図書館だより (児童向け)	Wa・Ka・Ba (青少年向け)	Book Fan Newsletter	合計
H22*	6	0	0	0	6
H23	10	10	4	0	24
H24	12	12	4	9	37
H25					

※H22 年度は H22 年 7 月からの統計

表 5 新聞・雑誌掲載回数

年度	朝日*	信毎*	市民タイムズ	中日	日経*	読売	その他	雑誌◆	合計
H22*	0	11	20	0	2	0	6	4	43
H23	0	9	32	1	0	1	6	3	52
H24	5	20	72	9	1	6	18	2	133
H25									

※H22 年度は H22 年 7 月からの統計

*印の新聞は記事データベースで検索、その他の新聞は掲載記事を手動でカウント

◆蔵書検索システムで検索した結果

表 6 中高生利用者数*

年度	中学生	高校生	合計
H22*	3,451	2,388	5,839
H23	3,592	3,137	6,729
H24	3,675	3,317	6,992
H25			

※H22 年度は H22 年 7 月からの統計

*13～18 歳の登録者のうち、年度内に貸出をした人数の累計（1 人 1 日 1 カウント）

表 7 資料回転率*

年度	一般	児童
H22*	1.14	2.08
H23	1.25	2.19
H24	1.27	2.04
H25		

※H22 年度は H22 年 7 月からの統計

*雑誌、視聴覚資料は除く

塩尻市立図書館サービス計画の策定の経過

平成25年5月14日	第1回検討会議
平成25年6月27日	第2回検討会議
平成25年7月8日	第3回検討会議
平成25年8月23日	第4回検討会議
平成25年9月3日	第5回検討会議
平成25年9月8日	利用者アンケート実施
平成25年9月27日	第6回検討会議
平成25年10月8日	第7回検討会議
平成25年10月15日	第8回検討会議
平成25年10月22日	第9回検討会議
平成25年11月8日	第10回検討会議
平成25年11月19日	第11回検討会議
平成25年12月2日	第12回検討会議
平成25年12月5日	図書館協議会
平成25年12月10日	第13回検討会議
平成25年12月28日	第14回検討会議
平成26年1月16日	第15回検討会議
平成26年1月21日	第16回検討会議
平成26年1月23日	教育委員会
平成26年1月30日	図書館協議会
平成26年2月7日	第17回検討会議
平成26年2月13日	第18回検討会議
平成26年2月17日	第19回検討会議
平成26年2月20日	第20回検討会議
平成26年2月28日	図書館協議会
平成26年3月4日	第21回検討会議